

2024年9月17日 東京企業研修 アンケート集計

ご参加 11人

アンケート回収 6人（掲載等の使用に同意 6人）

〈以下の回答は掲載等の使用に同意された方のみの分です〉

映画に関心を持たれたきっかけ

- a 1人 自身、周囲の方に解離性同一性障害の症状がある
- b 0人 解離性同一性障害について関心がある
- c 0人 ドラマとして面白そうだったから
- d 0人 キャスト・スタッフに関心がある
- e 3人 評判を聞いた
- f 3人 その他

自由記述

【同意します】6人

・ 昔に解離性同一障害について、初めてテレビで見た時に、これって本当の事なのかな？と感じたことを思い出しました。まだまだこういう症状について認識している方は少ないと思います。まずは知って、認めていくことが大事だなと思います。

また「解離できたから、生き延びることができた。解離することは自分を守るための手段だった」というようなお話を聞いて、この症状で悩んでいる方にその言葉が届いて、その方の人生のプラスになればいいなと思いました。

今回の映画の中で、その子さんの中にいる多重人格について、複数の俳優さんが演じられていたので、それぞれの人格の考えや、やりとりなどが見ていてわかりやすかった。

・ 解離性同一性障害について、とても理解しやすい映画でした。システムの中も話し合いを行い一人ひとりの考えや方向性を確認することで、解離とうまく付き合っていくということを学びました。解離＝統合失調症と囚われやすいですが、治療方法は違うことも知りました。

・ その子はその人たちと協力体制が取れてチームとして未来に迎えそうだったが、実際はそこまでたどり着けることはどれくらいあるのかなと思った。一つの体の中に複数の人格がいてかわるがわる出てきたとしても、体は一つなのだから、互いの人格が協力的だとしてもものすごく疲れるだろうと思った。まして、チームとして機能するまではそれ以上に疲れることだろう。そのうえで日常生活を営んでいる人はものすごいパワーなんだなと思った。

・ 今まで性暴力関係の研修を通して解離性同一性障害について学んできたが、この映画は解離性同一性障害を持つ方の視点がわかりやすく、様々な人格が頭の中に存在している状態で生活する困難さを理解できた。

・ 映像を見ることでDIDの症状をイメージしやすかった。

・上映会より、解離性同一性障害についてタイプの異なる自分が何人もいたら、頭の中も体も、相当しんどいと思いました。状況は個人で異なると思うので、当事者しか分からない苦痛だと思います。しかし、時間がかかってでも第三者の力を借りて自分と向き合い、今の自分を受け止めることで、何人もの自分と共存（一人ではないという意味）して生きていけるのだと思いました。そうやって少しずつ、一步一步、前を向いて生きて行こうとするその子の姿を見て安心したと同時に、サポートの力は必要だと改めて感じました。そのためにも支援者につながることがとても大切だと思いました。

トークにより、解離性同一性障害について日本ではあまり知られていないこと、処方薬はなく、PTSD、うつ病と3セットで発症している人が多いと知り、自分が当事者であったら改善は期待できないと思うだろうなと思いました。しかし、お話を伺って内部に向けての治療を続けることで、少しずつでも生きやすくなっていけるのだと理解しました。解離性は自分が生き延びるためのシステムであることや、外見ではわかりにくい疾病であることの理解が深まりました。私自身は、日頃の業務の中では相談者が周囲の力を借りて少しでも楽に生きられるようお願い、行動してくださっている支援員の方につながられるよう努めていきたいと思っています。